

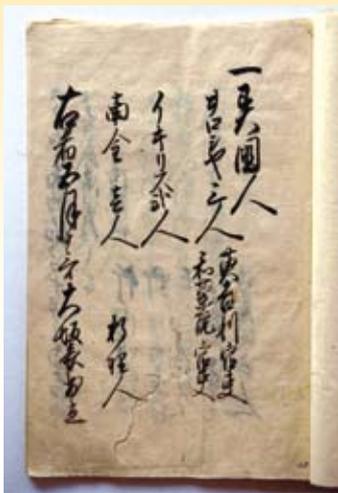
# 異国人も泊まった宿の記録

市史編さんだより(3)

人々が行きかい、様々な物資が運ばれる街道・・・江戸時代、伊賀市域を通る主要な街道は、奈良道、初瀬道などと呼ばれ、藤堂藩が整備しました。これら街道には平松・平田・上柘植・佐那具・上野・島ヶ原・伊勢地・阿保の宿場があり、旅をする人々にぎわっていました。

宿場の中でも、大名や上級の武士が、宿泊や休息するために設けられていたのが「本陣」「御茶屋」です。現在、伊賀市域に残る唯一の旧本陣が、島ヶ原にあります。そこには、宿場の様子や本陣に宿泊した人たちのことを伝えるたくさんの古文書『島ヶ原本陣御茶屋文書』が残されています。

島ヶ原の本陣に宿泊した人々には、大和郡山藩主松平(柳沢)甲斐守や薩摩藩の大奥様、奈良興福寺の大乗院門跡らがあり、特に、大名の宿泊の記録には、一行の名前や人数、献立に至るまで細かく記録されています。この



▲島ヶ原本陣御茶屋文書

ほかに、全国を測量して歩き、日本地図を作成したことで有名な伊能忠敬が、京都の笠置から島ヶ原宿を通り、柘植を経て亀山へ向かったことも記されています。さらに幕末には、次のような外国人が宿泊した記録もあります。

一 異国人  
 ヲロシヤ三人 英吉利官吏  
 和蘭陀官吏

イギリス武人  
 南金 壹人 料理人

〔御茶屋預り御道具控帳古記付書控〕

「異国人」とは、初代の駐日イギリス公使ラザフォード・オールコックの一行6人のことで、文久元年(1861)に大坂から江戸へ向かう旅の途中、5月14日に島ヶ原宿で泊まった時の記録です。ロシア人3人とイギリス人2人に中国人の料理人が同行していることがわかります。オールコックは安政6年(1859)に日本駐在総領事として江戸に着任し、文久2年(1862)に帰国しました。このときの様子は藤堂藩の記録にも「異国人ここともと通行の旨、通達触れ出し候事」(『序事類編』)と記され、またオールコック自身も著書『大君の都―幕末日本滞在記』に記しています。

このように、島ヶ原本陣御茶屋文書から、外国人の旅した様子がわかり、伊賀にもやがて迎える近代の足音が聞こえてきます。

本庁総務課市史編さん係 ☎52・4380



発行日 平成18年12月1日  
 発行 伊賀市  
 〒518-8501  
 三重県伊賀市上野丸之内116番地  
 編集 企画振興部広聴広報課  
 ☎0595-22-9636  
 FAX 0595-22-9617  
 伊賀市ホームページ：  
<http://www.city.iga.lg.jp/>

## ひとが輝く 地域が輝く ~住み良さが実感できる自立と共生のまち~ 伊賀市 IGA CITY

### 伊賀路ウォーク~青山歴史探訪コース~

11月12日、「歩くこと」で健康の保持・増進を図る伊賀路ウォークが行われました。コースは、青山北部公園を出発して宝蔵寺や大村神社などを巡る「青山歴史探訪コース」。参加者は健康づくりと同時に豊かな歴史にも触れることができました。



この日は寒さ厳しい一日でしたが、参加者は防寒対策もばっちりので服装で臨み、道の草花にも目をとめて伊賀路のウォーキングを楽しみました。

たくさん歩いて、健康に。みんなで歩けばもっと楽しい！寒さに負けず外を歩けば、いろんな発見があるかもしれませんね。(今月の表紙)



この広報紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。